

『沖縄の有用植物資源』第5回目は、ゲットウ（月桃）を紹介します。

ゲットウは、東アジアの温暖な地域からマレーシア熱帯にかけて分布するショウガ科の多年草で、葉は食品の香り付けや包装に、偽茎は繊維として用いられています。また、種子は生薬で大草菴（ダイソウウク）と呼ばれ、健胃剤として用いられています。方言でサンニンと呼ばれるゲットウは、旧暦の12月8日に練ったもち米の粉をゲットウの葉で包んで蒸したムーチャーがよく知られています。

ゲットウ（ショウガ科）

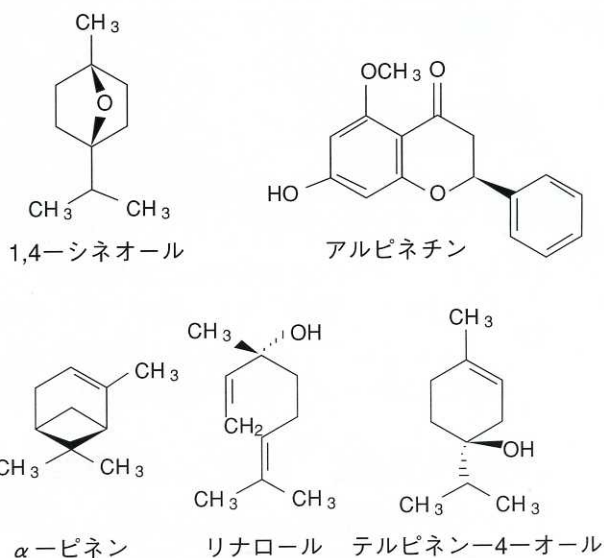


学名： *Alpinia speciosa* (Wendl.) K. Schum.

ゲットウに含まれる成分としては、種子に精油成分が含まれておりその主成分は1,4-シネオールで、その他にアルピネチン、 $\alpha$ -ピネンなどが含まれています。また、葉にも1,4-シネオールや $\alpha$ -ピネンなどが含まれています。

工業技術センターでは、平成11年度から14年度の経常研究において、糖尿病予防の指標となる $\alpha$ -アミラーゼ阻害活性試験や $\alpha$ -グルコシダーゼ阻害活性試験、高血圧予防の指標となるACE阻害活性試験、抗高脂血症、肥満およびニキビ改善の指標となるリパーゼ阻害活性試験をゲットウ各部位（花、葉、根、実）の50%エタノール抽出液について行ってきました。その結果、花・葉・根に $\alpha$ -アミラーゼ阻害活性を、花に $\alpha$ -グルコシダーゼ阻害活性を、葉と根にACE阻害活性を、花・葉・根・実のリパーゼ阻害活性を確認しました。

また、平成4年度の工業試験場（現工業技術センター）の研究では、同じAlpinia属の植物であるタイリンゲットウ（*Alpinia uraiensis* Hayata）精油成分の分析および食品腐敗菌に対する抗菌活性成分の同定を行い、抗菌活性成分としてリナロール、テルピネン-4-オールを同定しました。



### 参考文献

- ・世界有用植物事典 堀田満ほか（1996）平凡社
- ・原色牧野和漢薬草大圖鑑 三橋博監修（1998）北隆館
- ・おきなわの薬草百科 大田文子、多和田真淳共著（1985）新星図書出版
- ・中薬大辞典（1998）小学館
- ・平成11年度沖縄県工業技術センター研究報告P35-57
- ・平成12年度沖縄県工業技術センター研究報告P77-89
- ・平成13年度沖縄県工業技術センター研究報告P77-84
- ・平成14年度沖縄県工業技術センター研究報告P99-102
- ・平成4年度沖縄県工業試験場研究報告 P1-9

